

公益財団法人 アジア保健研修所

2015年度事業報告

(第4期 2015年4月1日～2016年3月31日)

A. 研修事業

1. 国際研修	1
2. 研修生フォローアップ事業	1
1) 英文ニュースレター発行	1
2) リユニオンセミナー (国別の元研修生会合)	1
3) その他のフォローアップ	2
3. 地域保健推進のための協働事業	2
① スリランカ	2
② スリランカ	2
③ フィリピン	2
④ フィリピン	2
⑤ ネパール	2
⑥ パキスタン	3

B. 国内活動

1. アジア理解のためのプログラム	3
1) オープンハウス	3
2) 初めて始めて講座	3
3) AHI 講座	3
4) 「チカチカしよう! アジアの草の根ワーカーと体当たりトーク」	3
5) スタディツアー	4
2. 関連分野での情報および体験機会の提供	
1) 情報誌「アジアの健康」発行	4
2) 情報誌「アジアの子ども」発行	4
3) インターネットを活用した広報	4
4) ボランティア・インターンの受け入れ	4
3. 他団体との協力	4
1) 他団体への講師派遣	4
2) 団体・ネットワークへの加盟	5
3) 他団体との協力による政策提言活動	5
4. 創立35周年記念事業および募金	5

C. 法人運営

1. 理事会・評議員会	5
2. 賛助会員募集・募金活動	6

はじめに

2015年AHIは創立35周年を迎えた。

AHIでは草創期から「健康はその人の社会・経済・政治的に置かれた状態の反映である」と考えてきた。世界保健機関（WHO）は「力と資源の偏在」が健康格差を起こしていると述べている。残念ながらこれらはいずれも、現在、アジア各国のみならず日本の状況に当てはまるものとなっている。

35年前に「アジアに胸を借りて学ぶ」とうたい、以来アジア理解のための活動を続けてきた。今や日本国内の地域課題に関して、アジア各国の研修生によって共有される現地での経験が、私たちに示唆するものは大きい。

健康を創り出すために人びとの力が醸成されるよう、それぞれに経験を積んだ各国の元研修生と協力し、環境を整えることに努めたい。

A. 研修事業

2015年度は、元研修生との協働事業としてバングラデシュリユニオンセミナー（国別の元研修生の会合）を10年以上ぶりに開催した。

引き続きまた他の国においても、元研修生の発意に基づきつつ、彼らのニーズに応じたテーマ設定をもって、継続的な学習機会の提供と有効なネットワークの形成に努める。

1. 国際研修

期間：2015年9月6日～10月12日

場所：アジア保健研修所（AHI）

参加者：保健・開発分野の地域活動に従事するNGO職員、住民組織のリーダー等アジア7ヶ国から計13名（男性9名、女性4名）

国別内訳：バングラデシュ2、インド3、ミャンマー1、ネパール2、パキスタン1、フィリピン1、スリランカ3

「地方分権下における住民参加による保健活動の推進」をテーマに、参加者の活動経験と課題意識に基づく研修を実施した。下記の内容を通して、各参加者が自分の地域、組織の課題解決に向けた方策を模索し、帰国後の活動計画を立案した。研修生間で率直な意見交換がなされるように努めた。

* 地域住民の健康問題の原因、保健政策の現状と課題、グローバル化の影響など、関連した諸状況を分析的にとらえ、地域住民が主体となって課題の解決を図るために、NGOにはどのような役割が必要かを討論した。特に、住民組織の能力形成、地方行政や他の関係機関との連携の構築や政策提言の方策を考えた。

* 日本における市民活動や市民と行政の協働を具体的な事例から学ぶため、名古屋市、日進市および尾張旭市（「WHO健康都市」）を訪問し、活動見学や意見交換を行った。

* 広島市を訪問し、平和教育や平和活動の実践を知ることにより、平和を創り出すために地域保健活動が果たし得る役割について考えた。

2. 研修生へのフォローアップ事業

1) 英文ニュースレターの発行

元研修生や国内外の関係団体との関係継続および経験共有の媒体として、2回、各1000部発行した。毎号テーマを設定し原稿を募った。

2015年7月 特集インドリユニオンセミナー
- 包括的健康にむけて

2016年2月 特集ネパール地震被災者支援

2) リユニオンセミナー（国別研修生会合）の開催

同国内で活動する元研修生間の新たな経験交流およびネットワーク構築の機会として、2015年度はバングラデシュにて開催した。元研修生有志が企画立案から実施を担った。参加者による活動発表のほか、準備の中心となった

元研修生の所属団体が近年力を入れてきた、住民参加による地域保健所の運営を主なトピックとして掲げ、現場を訪問し、関係者と対話を持った。AHI 職員 2 名が出張した。

期間：2015 年 11 月 20 日～23 日

場所：バングラデシュ西部ラジシャヒ

参加者：元研修生 23 名他

★インド、カンボジア、ネパールでもリユニオンセミナーを計画していたが、当該国事情や運営態勢が整わなかったため、延期とした。

3) その他のフォローアップ

■AHI との関係強化、研修生間のネットワーク形成のために

元研修生が AHI や他の研修生との関係を継続し、発展させていくことができるよう、次のような働きかけや環境整備を行った。

*誕生日に職員が寄せ書きしたカード、年末にはグリーティングカードを送付した。

*ホームページ上の「活動便覧」(元研修生が他の元研修生の活動を活動領域や国別などで検索できる機能)の活用を促進した。

■元研修生による事業実現のための支援

インドの元研修生による、ケララ州北部の山岳地域における伝統療法・代替医療推進の活動に対して支援依頼を受け、情報収集を進めた。その一環として、当該団体よりスタッフ 1 名を国際研修に招聘し、状況の把握に努めた。結果、先方の活動がまだ限られたものであることがわかり、支援開始は時期尚早と判断した。

3. 地域保健推進のための協働事業

下記の元研修生による開発活動に協力した。

①少数民族の人々のリーダーシップ育成

マリー・プリンシー (2009 年国際研修参加)

の所属団体 Janawaboda Kendraya(JK)との協働 (スリランカ)

スリランカ西部のニゴンボおよびコロombo地域で、社会的に存在が認められていない「テリング」(インドからの移住民)の人たちのリーダーシップ育成、保健活動などを支援した。

②茶農園地域の教育環境への支援

元研修生所属の団体 HDO (Human Development Organization) 及び Satyodaya との協働 (スリランカ)

スリランカの茶農園の労働者としてインドからの移住民であるインドタミルの人たちは、社会的に低い地位に置かれてきた。この地域の公立学校での補修クラスの開催を支援した。同時に生徒の保護者や地域住民の教育に関する意識を喚起するための働きかけを行った。

③ヘルシーライフスタイルプロジェクト

元研修生の有志団体 ANAK-NC との協働

(フィリピン)

ミンダナオ島ニューコレリア町の 4 村で、元研修生の団体 ANAK-NC による健康増進のための活動を支援した。ANAK-NC の研修を受けた推進員による生活習慣病予防のための講座や健康祭りなどが地域で定着しつつある。町行政からの評価も得られ、2015 年度から新たな 4 村について予算化され、地域での推進役となる保健ボランティアへの研修が行われた。

2015 年 11 月職員が出張した。

④保健ボランティア育成と代替医療の推進

元研修生の所属団体 INAM との協働

(フィリピン)

ルソン島中部のリサール州タナイ町およびケソン州ジェネラルナカール町で保健ボランティアの育成を支援した。先行するタナイでは、町の保健課による支援体制の下、ボランティアの組織化と組織運営に関する研修が行われた。

⑤地域住民の社会心理的課題に対する意識向上とメンタルヘルス推進

元研修生所属団体 Kopila Nepal との協働

(ネパール)

ネパールでは、メンタルヘルス（心理社会的健康）に関する人びとの知識が乏しく、差別も根強い。行政による対応も甚だ不十分である。

西部ポカラ周辺 2 郡（タナフ・シャンジャ）において、当事者および家族の自助グループの形成とその組織化を支援した。また、草の根カウンセラーの育成、地域住民への啓発活動も行った。2016 年 2 月職員が出張した。

⑥小規模 NGO の若手スタッフ育成研修 元研修生所属団体 エイズ啓発協会 AIDS Awareness Society (AAS) との協働

(パキスタン)

パキスタン北部のラホール市において、小規模 NGO のスタッフを対象とした研修会の開催を支援した。2013 年度の国際研修参加者によって計画されたもので 2 度目の実施であった。

元研修生を含む 2 名のファシリテーターが随時参加者を訪問し、フォローアップを行った。

期間：2015 年 5 月 22 日～5 月 31 日

場所：パキスタン中部ラホール

参加者：18 名 職員 1 名が出張した。

B. 国内活動

AHI 活動紹介の初めて講座の参加者やボランティア活動参加者には、引き続き関わり、関心を深めていくよう働きかけた。

AHI 講座では、潜在的な関心層を掘り起こすために、イスラムについての講座やネパール地震報告など、時事的なテーマを掲げ、開催した。

1. アジア理解のためのプログラム

1) オープンハウス

気軽に参加できる年に一度の恒例行事としてオープンハウスを 2015 年 10 月 12 日（月・祝）に AHI を会場に開催した。

6 月に新メンバーを迎えて約 20 名による実

行委員会を組織し、月 2～4 回の実行委員会を開催した。準備において実行委員会のメンバー自身の AHI やアジア理解促進に努めた。

当日の来場者は約 550 人。23 のグループの参加と約 100 名の個人ボランティアの協力を得た。

2) 初めて始めて講座

国際協力、あるいはボランティアなどに関心のある新規の人を対象に、AHI 紹介の講座を毎月 1 回、第 4 土曜日に開催した。

同講座において参加者同士の交流に努め、また他のプログラム担当者間の連携をはかり、その後のボランティア活動やプログラムへの参加につながるよう働きかけた。参加者計 76 名。

3) AHI 講座

アジア、国際協力等に関連するテーマを掲げ、下記のように実施した。

① 2015 年 7 月 4 日「教えてサラさん！知りたかったイスラム」於 AHI、31 名参加。名古屋モスクから講師を招き、イスラムの基本的な教えや信仰について知る機会とした。

② 2016 年 3 月 19 日「ネパール地震募金報告会～被災した人たちと元研修生の今」於 AHI 34 名参加。

2 月に現地を出張した清水香子職員が、現地の復興の状況や元研修生の働きについて報告した。

4) チカチカしよう！～アジアの草の根ワーカーと体当たりトーク

国際研修の研修生がリソースパーソンとなり、アジア各国の状況、NGO や住民組織による開発のための取り組みを伝え、またそれらに照らして日本の状況や課題を振り返ることを目的として行った。小グループにおいて話しや

すい雰囲気を作り、各参加者の中にある課題意識を引き出すことに努めた。

2015年9月26日(土)開催。参加者はボランティア20名を含め73名。

5) スタディツアー

元研修生及び所属団体の協力を得て、南インド、チェンナイ周辺および農村部を訪ねるツアーを実施した。実際に現場を訪れることによって地域開発やAHIの研修生の働きについて理解を深めるとともに、個々人が自分の生活を振り返ることを目的として、ホームステイなどを通じた生活体験およびNGOが住民とともに進める地域開発活動の見学等を行った。

2016年3月20日～30日 参加者15名。

2. 情報および体験機会の提供

1) 情報誌『アジアの健康』の発行

アジア各地の状況、開発課題、そこでのNGOや住民による取り組みを主な内容として、計4回、各回約4,000部発行した。

企画・編集は、毎号4回程度開催する会報編集委員会が担った。できるだけ具体的な情報を提供し、読者が身近に感じられるものを目指した。またボランティア紹介も積極的に取り上げ、国際協力への関心を高めることに努めた。

2015年6月には、簡便な形(A4両面)のAHIニュースを発行した。

2) 情報誌『アジアの子ども』の発行

日本の子ども(主対象:小学校高学年以上)向けに、現地での地域開発の活動も織り交ぜて、同時代を生きるアジア各地の子どもたちの日常をわかりやすく伝えることを主眼に、元研修生から情報を得て編集、発行した。

企画・編集は、毎号十数回開催する「アジアの子ども」編集委員会が担い、2015年8月お

よび2016年2月各5,500部発行した。

3) インターネットを活用した広報

ホームページをはじめ、広報におけるインターネットの比重が格段に大きくなっている。アジアの元研修生や国内の関係者がネット上で自由にやりとりする状況もある。

AHIからの発信・情報提供としてのホームページやフェイスブックでの情報発信の充実に努めた。

4) ボランティア/インターン受入れ

国際研修の期間を中心に、年間通じて積極的にボランティアやインターンを受け入れ、NGO活動に触れる機会を提供した。事務作業、国際研修補助、国内プログラム、動画作成など多様な業務が彼らによって担われた。

大学等によるプログラムを通じたインターンが6名、直接申込みの個人が6名。うち1名については、JICAによる青年海外協力隊のOB対象のインターン制度を活用した。

また、日進市内の中学校の職場体験として、4名を3日間、日進市内の県立高校の新任教員研修として計4名を各2日間受け入れた。

3. 他団体との協力

1) 他団体への講師派遣

要請に応じて、職員や関係者を講師として派遣し、アジアの状況を伝えた。

- ・学校関係(中学～大学) 30件
(国際研修の研修生を講師とした会も含む)
- ・キリスト教会 3件
- ・諸団体 8件
- ・ブース出展等 10件
- ・グループでの来館受け入れ 4件

2013年度・2014年度は、日進市協働事業(主催日進市、実施・運営AHI)として行った「体

感アジア！小学生のための国際理解講座」については、2015年度はこの事業外の位置づけであったが、日進市内計8校で実施した。また依頼に応じて市外4校においても実施した。

2) 団体・ネットワークへの加盟

下記の諸団体に加わり、関連分野の活動とともに進めた。〈 〉内は職員の各団体における現役職名。

- ・名古屋 NGO センター〈理事〉
 - ・名古屋キリスト教協議会〈書記〉
 - ・障害分野 NGO 連絡会〈幹事〉
 - ・日比 NGO ネットワーク
 - ・日本キリスト教協議会
 - ・カンボジア市民フォーラム〈世話人〉
 - ・開発教育協会
 - ・あじさい会（日進市内の事業所交流会）
 - ・ゆるやかネットワーク（日進市市民団体協議会）〈理事〉
 - ・パートナーシップサポートセンター
- この他、職員が次の団体の役職を務める。
- ・社会福祉法人さふらん会〈評議員〉
 - ・名古屋 YWCA〈評議員〉
 - ・医療法人財団愛泉会〈評議員〉

上述以外に、日進市及び近隣地域での市民グループ「にしん平和を考える会」「次世代の子どもたちのいのち・くらし・エネルギーを考える会」の活動にも加わった。

上述の障害分野 NGO 連絡会が主催者のひとつとなった2015年9月に行われたアジア太平洋 CBR 会議では、職員が出張し運営を担った。

3) 他団体との協力による政策提言活動

a) 名古屋 NGO センター

東海地域の NGO ネットワークである同センターの加盟団体として、さらに政策提言委員会のメンバーとして、国際協力機構（JICA）や外務省などへの政策提言活動に関わった。

2016年3月には、NGO と外務省の対話の場の一つである ODA 政策協議会が名古屋で行われ、そこに議題提案者として関わった。

b) カンボジア市民フォーラム

カンボジアに関わる日本の団体のネットワークである同フォーラムに加盟し、同国の開発、保健政策への提言、また援助国・国際援助機関に対する提言活動に関わった。

4. 創立 35 周年記念事業および募金

1) 記念式・懇親会

創立 35 周年を祝い、これまでの歩みを振り返る機会とした。記念募金で掲げた「次世代育成」に関連して地域の女性が次の世代のために始めたバングラデシュでの取り組みをビデオで紹介した。2015年12月12日（土）於 AHI 参加者 57 名

2) 創立 35 周年記念「アジアの次世代育成募金」の実施

アジア各地で将来の地域づくりを担う次世代育成に寄与するための事業を行うことを趣旨として行った。2015年7月1日～12月31日

C. 法人運営

支援者の減少が著しく、賛助会員については、2014年度末に比して300名以上の減となり、会費収入はたいへん厳しい状況にある。一方、周年募金等のほか、大口の寄付を得ることができたため、寄付金収入は昨年より上回った。

今後も減少に歯止めをかける方策を検討しつつ、支援者との丁寧な関係づくりに努める。

1. 理事会・評議員会

理事会を4回、評議員会を2回開催した。2015年度末現在理事12名、監事2名、評議員12名である。主な議題は下記の通り。

* 理事会

2015年6月5日

- 2014年度事業報告案・決算案の件
- 創立35周年記念募金の件

2015年11月7日

- 労働基準監督署からの指摘への対応の件
- 就業規則および給与規程改定の件

2016年1月28日

- 労働基準監督署からの指摘への対応の件
- 就業規則および給与規程改定の件

2016年3月11日

- 2016年度事業計画案・予算案の件

* 評議員会

2015年6月26日

- 2014年度事業報告案、決算案の件

2016年3月28日

- 2016年度事業計画案・予算案の件

2. 賛助会員募集・募金活動

● 賛助会員現勢 (2016年3月31日現在)

賛助会員総数 2,946名

＜うちひとつかみサポーター162名＞

寄付者総数 719名

● 支援者・資金獲得のための働きかけ

1) 支援のお願いの送付

新規の支援者を得るために、ボランティア活動やプログラムに参加した人たちにあて、メール配信などを通して関係を継続し、2015年12月にボランティア感謝会へのお誘いととも、「ひとつかみサポーター」のお願いを約400通送付した。そこからの協力者は3件であった。

2) 「想いを伝える遺言書の書き方講座」開催

同講座及び個別相談会を2015年5月、11月に開催した。参加者は計30名であった。

3) 古本提供による寄付「ギフトリレー」開始

ブックオフの協力を得て新たな支援の方法として2015年度から導入した。本人による買取金額の寄付に加え、同社が10%上乗せた額

が寄付される。年度末時点で、これによる協力は約20件の協力者、寄付額は約60,000円。

■ 会費収入実績 計 14,608,539円

(目標 15,400,000円 達成率 95%)

1. 従来 of 会費制度による 計 12,633,539円

(目標 13,200,000円 達成率 96%)

a) 新規会費 計 74,000円

(目標 150,000円 達成率 49%)

b) 継続会費 計 12,559,539円

(目標 13,050,000円 達成率 96%)

2. ひとつかみサポーター 計 1,975,000円

(目標 2,200,000円 達成率 90%)

a) 新規 計 108,000円

(目標 240,000円 達成率 45%)

b) 継続 計 1,867,000円

(目標 1,960,000円 達成率 95%)

■ 寄付金収入実績 計 85,522,913円

(目標 46,000,000円 達成率 185%)

賛助会員・寄付者に対して下記の募金をお願いを行った。またネパール地震募金に関しては、愛知県内のキリスト教会に向けて依頼を送付した。そのほか、新聞報道等により新規の寄付が約50件寄せられた。

1. クリスマス・お正月募金

実施期間 2015年12月1日-2016年2月28日

協力額 15,347,335円

(目標 20,000,000円 達成率 77%)

2. 創立35周年記念募金

実施期間 2015年7月1日-12月31日

協力額 859件 11,945,769円

(目標 13,000,000円 達成率 92%)

3. ネパール地震募金

実施期間 2015年4月27日-2016年3月31日

協力額 323件 4,938,421円

4. 一般寄付 53,281,388円

(目標 13,000,000円 達成率 410%)